

令和3年度 林業普及週間現地情報 (11/7～11/13)

森林管理課

令和3年度林業研究グループコンクール九州ブロック発表指導 (宮古森林組合林業研究グループ)

11月8日(月)

令和3年度の林業研究グループコンクール九州ブロックについて、沖縄県の林研グループ代表として「宮古森林組合林業研究グループ」が発表した。その発表の指導を宮古地区の林業普及指導員が行ったので、次のとおり報告する。

林業研究グループコンクールは、全国林業研究グループ連絡協議会が主催の林研グループ実績報告会で、九州ブロックでは、九州各県が毎年持ち回りで事務局となり開催される。今年度は福岡県での開催だったが、コロナ渦ということもあり10月8日に書面で行われた。発表はプレゼン資料(データ)に発表者の声を録音して行われる形式で行われ、全国林業研究グループ連絡協議会長等が審査員となり、審査が行われた。

宮古森林組合林業研究グループは、平成12年に「森林・林業に関する知識・技術の向上及び林業従事者の情報交換」を目的に、宮古森林組合の職員や作業班によって結成され、現在21名(平均年齢44歳)の構成員で活動している。主な活動内容として、森林ボランティア団体の「美ぎ島宮古グリーンネット」の作業補助を行っている。

発表は、宮古森林組合の若手職員が「次世代へつなぐ 緑豊かな美ぎ島へ」というタイトルで行った。宮古森林組合林業研究グループは、平成17年の美ぎ島宮古グリーンネット設立当初から作業補助を行っており、植栽した樹木の生長の様子や活動を行ううえでの課題、今後の展望等を発表していた。林業普及指導員はこれらの発表にむけた、原稿の作成指導や発表者の音声入力補助等をおこなった。書面による審査の結果「全林研会長賞」で、講評では審査員全員が、本活動に好印象をもったとのコメントをしていた。

宮古地区は他地域と比べて森林率が低く、少ない森林をいかに維持していくかが、課題となっている。そうした中で、宮古森林組合林業研究グループの活動が、まさに「次世代につなぐ」活動になっている。また、本グループは比較的若い構成員が在籍することから、こうした構成員が「自ら」活動について発信していくことが重要だと考えられる。林業普及指導員としてもその一役が担えるよう、引き続き普及指導を行っていきたい。



書面発表のプレゼン資料



音声入力の様子



表彰状



表彰状授与の様子（林業普及指導員から発表者へ）



（報告者：宮古農林水産振興センター 古井）